### 仕事の垢り近りシート (全和5年度宝施分)

**作成**, 再轮口 2024年0日0日

は手切派り返りクード(市和3千皮大旭刀) - 「 <sup>「「城」 実制」 2024年6月9日</sup>										
事業名	東北新幹	線小山駅停	車増便促進期成同盟会参画事業	実施計画事業or一般事業	一般事業		市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
				施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当あり	スマートシティ	該当なし
L. 基本情報									,	
旦当組織	部	都市建設部		予算中事業名		会計	×	事業計画	単年度	繰り返し
	課	交通政策課		東北新幹線小山駅停車増便	予算	款	×	新規or継続	継続	事業
	係	地域交通係		促進期成同盟会参画事業	科目	項	×	市単独or国県補助	市単独事業	
	体系コード	532	名称	根拠法令、条例等		皿	×	義務or任意	任意的	勺事業
攺策体系	基本目標	5	快適により安全で安心して暮らせるまちづくり	  東北新幹線小山駅停車増便	事業	開始年度	H17	実施方法	直	営
IX JAY PATUN	政策	3	都市機能の充実したまちづくり	促進期成同盟会規約	期間	終了年度		事業分類	参画	事業
	施策	2	公共交通網の整備	<b>促起剂从同盅</b> 互//师						
2. 事業概	悪と目的な	なび(基本計	画期間内)目標値							
(1)事業	と 概要									
	東北新幹網	泉小山駅停車	「増便促進期成同盟会に参画して、小山駅	の 現で接続する鉄道沿線の市及び	商丁会!	養所∙商丁≄	会と連携し、	東北新幹	線の小山斯	R停車の増
<b>『業概要</b>	東北新幹線小山駅停車増便促進期成同盟会に参画して、小山駅に接続する鉄道沿線の市及び商工会議所・商工会と連携し、東北新幹線の小山駅停車の増 									

便の促進に関する要望を行う。

(2)目的

(3)目標値

目的	
(本事業に	JR東日本
よって成し	進等に関
遂げたい	進寺に対
状態)	

ト大宮支社に対し、東北新幹線の小山駅停車増便の促 |する要望活動を実施し改善してもらう。

効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
鉄道利用者数	千人	4,203	3,194	3,246	3,299	3,339
公共交通機関が便利であると思う市民の割合	%	56.5	55.0	55.5	56.0	56.5

#### 3. 前年度の実績(活動及び費用対効果)説明

(1)活動実績

活動実績 (R5年度に 行った主な活 動内容)

(2)活動を説明する数値データ及び事業費の推移

		活動指標	単位	R3	R4	R5
	山駅停車増便促進期成同盟会の活動に参画 幹事会、11/20総会) /28)	会議·要望活動	回	3	3	3
_		要望件数	件	5	5	5
_						
· 要望活動(2/28)		事業費計	千円	0	0	0
· ·		一般財源	千円	0	0	0
		特定財源(国·県·他)	千円			
		(うち受益者負担)	千円			

(3)活動による効果

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

効果説明
(定量及び
定性)

鉄道利用者数が増加する一方で、公共交通機関が便利であると 思う市民の割合は減少している。

効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
鉄道利用者数	千人	3,369	3,427	3,550	値が大きいほど良い	効果が上がった
公共交通機関が便利であると思う市民の割合	%	37.4	36.9	35.5	値が大きいほど良い	効果が下がった

#### (5)費用対効果結果(自動判定)

費用(R5	とR4の一般財源増減)	費用の増減無し
効果	効果が上がった指標数	1指標
	効果は変わらない指標数	0指標
(R5とR4の	効果が下がった指標数	1指標
指標値増減)	指標全体	効果は変わらない

※10万円以上の増減により判断

			効果	
		効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
費	費用は下がった			
	費用の増減無し		0	
用	費用が増加した			

#### 4. 次年度に向けた検討

(1) 令和5年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

東北新幹線の小山駅停車増便という所期の目的をある程度達成した中で、今後の同盟会活動のあり方について見直しが必要である。

( )	上記反省点及び課題を踏まえた、	$\Delta m \in \mathcal{L} \oplus \mathcal{L} \cap \mathcal{L} \cap \mathcal{L}$	누麻ᄼᄪᄵ
( 2 )	上記以自以及い誄越を始まんに、	つ他0年反及ひつ他 / ゚	干/曼 の4X社

	事業の在り方検討(廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど)						
	事業効果を上げるための事務改善の検討						
	事業費の見直し検討						
	業務時間効率化のための事務改善の検討						
$\checkmark$	特に検討事項無し (現状維持又は現状の計画通り)						

取組説明
------

要望活動は市単独で行うより、同盟会に加入し他市町と連携して実施する方が効果的であ り、同盟会活動への参画を継続する。

作成·更新日 2024年8月9日

エ争の派り返りプログログログログラー 1000 2000 1000 1000 1000 1000 1000 100										
事業名	両毛線整	<b>坚備促進</b> 其	<b>那成同盟会参画事業</b>	実施計画事業or一般事業	一般事業		市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
				施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当あり	スマートシティ	該当なし
L. 基本情	報							•	•	-
旦当組織	部	都市建設部		予算中事業名		会計	一般	事業計画	単年度網	繰り返し
	課	交通政策課		両毛線整備促進期成同盟会	予算	款	3	新規or継続	継続事業	
	係	地域交通係		参画事業	科目	項	1	市単独or国県補助	市単独	專業
	体系コード	532	名称	根拠法令、条例等		田	23	義務or任意	任意的	事業
攺策体系	基本目標	5	快適により安全で安心して暮らせるまちづくり	    両毛線整備促進期成同盟会		開始年度	S33	実施方法	直	営
KW MVK	政策	3	都市機能の充実したまちづくり	規約		終了年度		事業分類	参画	事業
	施策	2	公共交通網の整備	ለንፔስ ህ						
2. 事業概要と目的及び (基本計画期間内) 目標値 (1) 事業概要										
									15450 -	

事業概要

|両毛線整備促進期成同盟会に参画して、JR両毛線沿線の市町及び商工会議所・商工会と連携し、JR東日本高崎支社に対しJR両毛線の複線化及び施設整 備等の促進に関する要望を行う。

(2)目的

(3)目標値

目的 (本事業に よって成し 遂げたい 状態)

JR東日本高崎支社に対し、両毛線の駅等の施設整備及びダイヤ などの利便性の向上に関する要望活動を実施し改善してもらう。

効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
鉄道利用者数	千人	4,203	3,194	3,246	3,299	3,339
公共交通機関が便利であると思う市民の割合	%	56.5	55.0	55.5	56.0	56.5

#### 3. 前年度の実績(活動及び費用対効果)説明

(1)活動実績

(2)活動を説明する数値データ及び事業費の推移

		活動指標	単位	R3	R4	R5
活動実績 (R5年度に	両毛線整備促進期成同盟会の活動に参画 ・会議(6/2担当者会議、8/10総会) ・要望活動(3/5)	会議·要望活動·啓発活動		6	5	5
		要望件数	件	15	19	19
・ 行った主な活 動内容)		事業費計	千円	12	12	12
勤內谷)		一般財源	千円	12	12	12
		特定財源(国·県·他)	千円			
		(うち受益者負担)	千円			

(3)活動による効果

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

効果説明 (定量及び 定性)

鉄道利用者数が増加する一方で、公共交通機関が便利であると 思う市民の割合は減少している。

	効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
	鉄道利用者数	千人	3,369	3,427	3,550	値が大きいほど良い	効果が上がった
_	公共交通機関が便利であると思う市民の割合	%	37.4	36.9	35.5	値が大きいほど良い	効果が下がった

(5)費用対効果結果(自動判定)

費用(R5	とR4の一般財源増減)	費用の増減無し
効果	効果が上がった指標数	1指標
	効果は変わらない指標数	0指標
	効果が下がった指標数	1指標
指標値増減)	指標全体	効果は変わらない

※10万円以上の増減により判断

			効果	
		効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
費	費用は下がった			
	費用の増減無し		0	
用	費用が増加した			

#### 4. 次年度に向けた検討

(1) 令和5年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

両毛線整備促進期成同盟会の事務局である桐生市と連携し、要望書に本市の要望内容を反映することができた。

( )	上記反省点及び課題を踏まえた、	$\Delta m \in \mathcal{L} \oplus \mathcal{L} \cap \mathcal{L} \cap \mathcal{L}$	누麻ᄼᄪᄵ
( 2 )	上記以自以及い誄越を始まんに、	つ他0年反及ひつ他 / ゚	干/曼 の4X社

	事業の在り方検討(廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど)
	事業効果を上げるための事務改善の検討
	事業費の見直し検討
	業務時間効率化のための事務改善の検討
<b>V</b>	特に検討事項無し(現状維持又は現状の計画通り)

取組説明
------

要望活動は市単独で行うより、同盟会に加入し他市町と連携して実施する方が効果的であ り、同盟会活動への参画を継続する。

業務時間効率化のための事務改善の検討特に検討事項無し(現状維持又は現状の計画通り)

		1	1					
業名	生活路線バス車両購入事業	実施計画事業or一般事業	—f	股事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当あり
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当あり	スマートシティ	該当な
. 基本情		1				1	·	
	部都市建設部	予算中事業名		会計		事業計画		
当組織	課交通政策課	   生活路線バス車両購入事業		款	2	新規or継続	継続	
	係 地域交通係	工力品的人人中国两人争来	科目	項	1	市単独or国県補助		事業
	体系コード 532 名称	根拠法令、条例等		目	23	義務or任意	任意的	り事業
(策体系	基本目標 5 快適により安全で安心して暮らせるまちづくり	地域公共交通活性化及び再	事業	開始年度	R4	実施方法	直	営
(水平木	政策 3 都市機能の充実したまちづくり	生に関する法律、佐野市地	期間	終了年度	R5	事業分類	その他市民に	対する事
	施策 2 公共交通網の整備	域公共交通計画					ı	
<b>.事業</b> 概 〔1〕事第	祝要と目的及び(基本計画期間内)目標値							
業概要	生活路線バス運行事業者に貸与していた小型バス車両1台が、故 運行事業者に貸与する。	障により長期的な使用が困難な	状態とな	なったため、	新たに中型	ノンステップ	バス1台を	購入し、
2)目的		(3)目標値						
		効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
目的		生活路線バス年間利用者数	人	141,000	115,000	118,000	120,000	123,00
本事業に	生活路線バスの運行維持を図るため、バス車両1台を購入し運行		円	500	480	460	440	42
さって成し	事業者に貸与する。	-						
遂げたい <sup>3</sup> 状態)								
DVIEV)								
. 前年度	その実績(活動及び費用対効果)説明							
1) 活動	力実績	(2)活動を説明する数値デ	ータ及し	事業費の持	隹移		-	
		活動指標	単位	R3	R4	R5		
		ボラロ井コ ノンギャ	/>					
		バス購入台数	台	ī	•	1		
動実績								
	【令和4年度繰越】							
った主な活	・中型ノンステップバス1台を購入し運行事業者に貸与した。	事業費計	千円	0	0	22,583		
协内容)		—————————————————————————————————————	千円			22,583		
						22,303		
		特定財源(国·県·他)	千円					
		(うち受益者負担)	千円					
						l	l 	
3) 活動	かによる効果	(4)事業効果を説明する数					↓選択して	
		効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	
果説明		生活路線バス年間利用者数	人		-	178,443		効果が上がた
定量及び	生活路線バスの年間利用者数が増加した。	営業係数(路線バス)	円	463	341	289	値が小さいほど良い	効果が上がっ
定性)								
5)費用	]対効果結果(自動判定)							
開(R5	とR4の一般財源増減) 費用が増加した	※10万円以上の増減により判断				効果		
効果	効果が上がった指標数 2指標				効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった	
R5とR4の	効果は変わらない指標数     0指標       効果が下がった指標数     0指標	_	費	費用は下がった				
標値増減)	指標全体の対象を表現している。		用	費用が増加した	$\cap$			
	100	-						, i
1) 令和	ででいけた検討 15年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見 小型バス1台から、中型バス1台に更新することで乗車定員が増加			_		整備に繋げ	ることができ	た。
2) 上訂	品欠省点及び課題を踏まえた、令和6年度及び令和7年度の取組							
		取組説明						
	事業の在り方検討(廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど) 事業効果を上げるための事務改善の検討 事業費の見直し検討	令和5年度で事業終了						
	事業員の兄直U快的 業務時間効率化のための事務改善の検討	かまり 大区 しず未於						

作成·更新日 2024年8月9日

事業名	生活路線	泉バス運行	支援事業	実施計画事業or一般事業	実施記	十画事業	市長公約	3-②	総合戦略	該当あり
				施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当あり	スマートシティ	該当なし
1. 基本情	青報				•				•	•
	部	都市建設部		予算中事業名		会計	一般	事業計画	単年度	繰り返し
旦当組織	課	交通政策課		生活路線バス運行支援事業	予算	款	2	新規or継続	継続	事業
	係	地域交通係		土冶始極八人建行又拔爭未	科目	項	1	市単独or国県補助	国県補	助事業
	体系コード	532	名称	根拠法令、条例等		目	23	義務or任意	任意的	的事業
政策体系	基本目標	5	快適により安全で安心して暮らせるまちづくり	地域公共交通活性化及び再	事業	開始年度	R2	実施方法	一部	委託
以外件示	政策	3	都市機能の充実したまちづくり	生に関する法律、佐野市地	期間	終了年度		事業分類	支援	事業
	+4=55	1	ハサウス個の軟件	提心共大流計画						

#### 2. 事業概要と目的及び(基本計画期間内)目標値

(1) 事業概要

事業概要

市民の移動手段を確保するため、生活路線バスの運行事業者に対し、補助金を交付し支援を行う。また、効率的な運行や利便性向上を図るため、公共交通の有 識者から助言を受ける。利用促進を図るため、時刻表等を作成し配布を行う。

(2)目的

(3)目標値

		効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
目的		生活路線バス年間利用者数	人	141,000	115,000	118,000	120,000	123,000
(本事業に	生活政治 バスの利用性のウェル 対変的 か実行を図え	生活路線バスアウトレット乗降客数	人		9,400	11,000	12,000	12,600
よって成し 遂げたい	生活路線バスの利便性の向上と効率的な運行を図る。	営業係数(路線バス)	円	500	480	460	440	420
状態)		営業係数(デマンド交通)	田	2,100	2,000	1,950	1,900	1,850
V (121)								

### 3. 前年度の実績(活動及び費用対効果)説明

(1)活動実績

(2)活動を説明する数値データ及び事業費の推移

		活動指標	単位	R3	R4	R5
	・生活路線バス運行事業者に対し、生活路線バス運行費補助金を交付した。	生活路線バス運行路線・エリア数	路線	9	9	9
<b>ンズチレウル</b> を		時刻表作成部数	部	5,000	4,000	6,000
活動実績 (R5年度に						
行った主な活 動内容)		事業費計	千円	126,539	124,022	120,036
到171台)		一般財源	千円	120,864	118,011	113,679
		特定財源(国·県·他)	千円	5,675	6,011	6,357
		(うち受益者負担)	千円			

(3)活動による効果

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

(0),111	31.00.073310	( . ) 3 > > > < C = 0 1 3 3 0 0 3 > C = 0 1 3 1 0 0 0 3 > C = 0 1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0					Ψ X=3/ (O )	
効果説明 (定量及び 定性)	生活路線バスの年間利用者数が増加した。	効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
		生活路線バス年間利用者数	人	120,156	155,691	178,443	値が大きいほど良い	効果が上がった
		生活路線バスアウトレット乗降客数	人	12,198	20,369	21,833	値が大きいほど良い	効果が上がった
		営業係数(路線バス)	円	463	341	289	値が小さいほど良い	効果が上がった
		営業係数(デマンド交通)	円	1,772	1,701	1,728	値が小さいほど良い	効果が下がった

(5)費用対効果結果(自動判定)

費用(R5	とR4の一般財源増減)	費用は下がった
効果	効果が上がった指標数	3指標
	効果は変わらない指標数	0指標
(R5とR4の	効果が下がった指標数	1指標
指標值増減)	指標全体	効果が上がった

※10万円以上の増減により判断

			効果	
		効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
費	費用は下がった	0		
	費用の増減無し			
用	費用が増加した			

#### 4. 次年度に向けた検討

(1) 令和5年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

市や運行事業者に寄せられる意見・要望を検討し、路線バスの運行ダイヤや運行経路、デマンド交通の共通乗降場所の見直しを実施し、利便性を向上させ、利用者の増加に 繋げることができた。

(2)	ト記点少占及が無額を効まった	令和6年度及び令和7年度の取締
( Z )	上記以自以及い誄越を始まんに、	カ州0年浸及いカ州/平浸の城市

□ 事業の在り方検討(廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど)
□ 事業効果を上げるための事務改善の検討
□ 事業費の見直し検討
□ 業務時間効率化のための事務改善の検討
☑ 特に検討事項無し (現状維持又は現状の計画通り)

取組説明
------

継続的な運行ダイヤ等の見直し、利用促進策の検討 令和7年度以降の運行事業者の選定

作成·更新日 2024年8月9日

				T				1		
事業名	<b>」  生活路線バス利便性向上事業</b>		実施計画事業or一般事業			市長公約	該当なし			
			施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当あり	スマートシティ	該当なし	
L. 基本情		±n-1-7-±=n.÷n		<b>又供上市业</b> 力		Λ=I	ÁΠ.	±₩=1±	#08878	****
L	部	都市建設部交通政策課		予算中事業名	~ <del>~</del>	会計		事業計画		
	課 係	父		生活路線バス利便性向上事		款 項		新規or継続 市単独or国県補助	継続 市単独	
	体系コード	532		業 根拠法令、条例等	科目	目		義務or任意	任意的	
	基本目標		快適により安全で安心して暮らせるまちづくり	地域公共交通活性化及び再	事業	開始年度		実施方法	直	
73年体系	政策		都市機能の充実したまちづくり	生に関する法律、佐野市地		終了年度		事業分類		_
ŀ	<u>政策</u> 施策		公共交通網の整備	域公共交通計画	MIDI	心了十尺	KJ	尹未刀积	Coyleiliator	ことのも来
(1)事業	概要		画期間内)目標値		·		~1 <del>0</del> =	747 <del>- =</del> > ₩ - 0, + L + 1	√- / <del>-</del> /- /- γ-1 σ-1	4.//c+ 153
事業概要		通事業者の人	向上を推進するため、ジェイア−ルバス関東( ウハウを活用して、バス利用者にとって使いt							
(2)目的	]			(3)目標値						
				効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
目的				生活路線バス年間利用者数	人	141,000	115,000	118,000	120,000	123,000
(本事業に	民間交通事	三業者のノウノ	いうを活用し、生活路線バスの利便性を向	生活路線バスアウトレット乗降客数	人		9,400	11,000	12,000	12,600
よって成し 遂げたい	上させる。									
状態)										
<b>3. 前年度</b> (1)活動		<b>舌動及び費用</b>	3対効果)説明	(2)活動を説明する数値デ	ータ及ひ	事業費の担	<b>進移</b>		ı	
				活動指標	単位	R3	R4	R5		
				派遣職員数	人	1	1	1		
				//////////////////////////////////////						
舌動実績	<b>4 8 6 6 7 8</b>	<b>=</b> /= # /	<b></b> .							
R5年度に		重行ダイヤの!								
った主な活		線の運行系統		事業費計	千円	4,103	4,362	5,520		
動内容)	・テマンド交:	通共通乗降	場所の追加	2 1132 121		-				
				一般財源	千円	4,103	4,362	5,520		
				特定財源(国·県·他)	千円					
				(うち受益者負担)	千円					
				(,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,						
(3)活動	による効果			(4) 事業効果を説明する数値データの推移					↓選択して	
				効果指標	単位	R3	R4		指標の性質	
効果説明				生活路線バス年間利用者数	人			178,443		効果が上がった
	生活路線八	この年間利用	用者数が増加した。	生活路線バスアウトレット乗降客数	人	12,198	20,369	21,833	値が大きいほど良い	効果が上がった
` 定性)										
						<u> </u>		<u> </u>		
		<b>艮(自動判</b> 定		1						
	とR4の一般		費用が増加した	※10万円以上の増減により判断			+I m · · · ·	効果	+1 m · · · · ·	
効果	効果が上が 効果は変わら		2指標 		弗	費用は下がった	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった	
(R5とR4の に無点はま	効果が下が	った指標数	0指標		費用	費用の増減無し				
旨標値増減)		指標全体	効果が上がった		т	費用が増加した	0			
(1) 令和		業実施にお	ける反省点、環境変化や関係者からの意見 しにより利用者数が増加した。	男等を踏まえた検討課題、費用対	对効果向	可上のための	課題			
(2)上記	見る	が課題を踏ま	えた、令和6年度及び令和7年度の取組							
				取組説明						
取組説明  □ 事業の在り方検討 (廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど) □ 事業効果を上げるための事務改善の検討 □ 事業費の見直し検討 □ 業務時間効率化のための事務改善の検討 □ 特に検討事項無し (現状維持又は現状の計画通り)										

作成·更新日 2024年8月9日

事業名	東武鉄道	直整備促進	<b>進期成同盟会参画事業</b>	実施計画事業or一般事業	<b>一</b> 舟	设事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
	施策横断的な取組との関連性   SDGs   該当あり コンパクトシティ   該当あり   スマートシティ   該当む   まご   表記   表記   表記   表記   表記   表記   表記   表	該当なし								
L. 基本情	青報					•				
	部	都市建設部		予算中事業名		会計	一般	事業計画	単年度	繰り返し
旦当組織	課	交通政策課		施策横断的な取組との関連性 SDGs 該当  予算中事業名 東武鉄道整備促進期成同盟 予算 款 4月 項 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	款	3	新規or継続	継続事業		
				会参画事業	科目	項	1	市単独or国県補助	市単独	事業
	体系コード	532	名称	根拠法令、条例等		田	23	該当あり スマートシティ   該当なし   事業計画   単年度繰り返し   新規or継続   継続事業   市単独事業   義務or任意   任意的事業   実施方法   直営		
攺策体系	基本目標	5	快適により安全で安心して暮らせるまちづくり	事業 開始年度 H6 実施方法		直	営			
以來呼水	政策	3	都市機能の充実したまちづくり		期間	終了年度		事業分類	参画	ix 該当なし を繰り返し 売事業 独事業 ・
	施策	2	公共交通網の整備	五次心						

#### 2. 事業概要と目的及び(基本計画期間内)目標値

#### (1) 事業概要

事業概要

東武鉄道整備促進期成同盟会に参画し、東武伊勢崎線、佐野線、小泉線及び桐生線沿線の市町と連携して、東武鉄道(株)本社に対し東武鉄道の複線化及 び利便性の向上の促進に関する要望を行う。

(2)目的

(3)目標値

		効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
目的		鉄道利用者数	千人	4,203	3,194	3,246	3,299	3,339
(本事業に	東武鉄道(株)に対し、東武鉄道の複線化及び利便性の向上の促	公共交通機関が便利であると思う市民の割合	%	56.5	55.0	55.5	56.0	56.5
よって成し 遂げたい	進に関する要望活動を実施し改善してもらう。							
状態)								
<i>5</i>								

### 3. 前年度の実績(活動及び費用対効果)説明

(1)活動実績

(2)活動を説明する数値データ及び事業費の推移

		活動指標	単位	R3	R4	R5
	東武鉄道整備促進期成同盟会の活動に参画 ・会議(9/1幹事会、10/25総会)	会議·要望活動·啓発活動		5	4	4
\エチL (*) (*)		要望件数	件	16	20	25
(R5年度に 行った主な活						
		事業費計	千円	24	24	24
動内容)		一般財源	千円	24	24	24
		特定財源(国·県·他)	千円			
		(うち受益者負担)	千円			

(3)活動による効果

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

効果説明
(定量及び
定性)
(定量及び

鉄道利用者数が増加する一方で、公共交通機関が便利であると 思う市民の割合は減少している。

効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
鉄道利用者数	千人	3,369	3,427	3,550	値が大きいほど良い	効果が上がった
公共交通機関が便利であると思う市民の割合	%	37.4	36.9	35.5	値が大きいほど良い	効果が下がった

#### (5)費用対効果結果(自動判定)

費用(R5とR4の一般財源増減)		費用の増減無し
効果	効果が上がった指標数	1指標
	効果は変わらない指標数	0指標
	効果が下がった指標数	1指標
指標值増減)	指標全体	効果は変わらない

※10万円以上の増減により判断

		効果		
		効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
費	費用は下がった			
	費用の増減無し		0	
用	費用が増加した			

#### 4. 次年度に向けた検討

(1) 令和5年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

東武鉄道整備促進期成同盟会の事務局である足利市と連携し、要望書に本市の要望内容を反映することができた。

(2)	ト記点少占及が無額を効まった	令和6年度及び令和7年度の取締
( Z )	上記以自以及い誄越を始まんに、	カ州0年浸及いカ州/平浸の城市

	事業の在り方検討 (廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど)
	事業効果を上げるための事務改善の検討
	事業費の見直し検討
	業務時間効率化のための事務改善の検討
$\checkmark$	特に検討事項無し (現状維持又は現状の計画通り)

取組説明
------

要望活動は市単独で行うより、同盟会に加入し他市町と連携して実施する方が効果的であ り、同盟会活動への参画を継続する。